

学校番号	25	学校名	浜松みをつくし特別支援学校	校長名	池田 昌史
------	----	-----	---------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

（A：十分取り組んでいる B：取組始めている C：まだ取り組めていない D：該当しない）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア①	学び合いの中で気付き分かってできる授業実践	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修の充実 発達段階や障害特性、指導の系統性等の根拠に裏付けられた授業実践 一人一人のコミュニケーション方法の拡充 ICT機器の効果的な活用 	【教職員】 ・ A:56% B:39% ・ A:44% B:42% ・ A:66% B:31% ・ A:38% B:53% 【保護者】 A:85% B:11%	A	<ul style="list-style-type: none"> 研修や、みをつくしシートの見直し等により、授業が充実したり星本の活用も増えたりして授業実践につながった。今後は実践例の蓄積、シートの修正を行う。 公開授業、研究授業、事後検討会を実施した。今後は3年間のまとめを行いたい。 教員のICT機器の活用により個々に合った表出、視覚支援を行った。 教員間で研修等により授業や日常生活でICT機器が活用されるようになった。今後は、なぜICTが有効なのか情報発信する。
ア②	豊かでしなやかな心と健やかな体を育む取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> 保健指導や食育、体育等の児童生徒の心や体への理解や成長を促す取組の推進 多様な他者との関わりの中で学ぶ機会の充実 	【教職員】 ・ A:56% B:37% ・ A:50% B:44% 【保護者】 A:80% B:16%	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のペア学年での学習を実施した。今後、継続と内容の充実を図る。 児童生徒が、日常生活とのつながりや運動の楽しさを知ったり協調性を育んだりすることができた。今後は、指導計画の定期的に見直す、外部指導者の知識を教員の指導に生かす、特性に応じた摂食指導について研修を行いたい。 全児童生徒が集まった場でお互いに発表し、他学部の様子を知ることができた。今後もパワーポイントの活用、身振りサインを浸透させたい。
ア③	今を大切に、将来の夢に向かって進むキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の「好き」や「得意」を見つけ、広げ、家庭と共有する 12年間や将来の生活を見通した、家庭と連携したキャリア教育の推進 	【教職員】 ・ A:63% B:34% ・ A:44% B:44% 【保護者】 A:70% B:25%	A	<ul style="list-style-type: none"> 懇談会内容を生活年齢に合わせて変更した。 教員が育てたい力や学習の様子を保護者と共有した。今後はデジタルプラットフォームへのスムーズな移行を推進する。 キャリアパスポートや進路だよりの活用により、教員が保護者と子どもの将来の話をすることができた。今後は、職員にさらなる活用を促したい。 読み聞かせて児童生徒が本に親しみ興味をもった。芸術や読書の授業後はホームページに掲載、学部や学年間で共有した。 児童生徒にスポーツを経験させ、日常的に意欲を引き出す、認める、得意なことを伸ばし、教員は褒めることができた。

様式第3号

イ①	<p>事故や災害等への未然防止と対応力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健康及び安全に配慮した環境整備やヒヤリハットの共有等、未然防止の取組の充実 実行性のある各種マニュアルの活用と改善 事務部と各学部、各分掌との連携 児童生徒が自他の命を大切にする安全教育の推進 	<p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> A:64% B:34% <p>・ A:59%</p> <p>B:39%</p> <p>・ —</p> <p>・ A:52%</p> <p>B:43%</p> <p>【保護者】</p> <p>A:76%</p> <p>B:20%</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年主任を中心に学年間で連携ができた。今後もお互いを尊重し合い気持ちよく働ける雰囲気づくりに努める。 毎月、安全点検結果やヒヤリハット事例を共有した。今後は、他校の例も情報提供、マニュアルの改善を行う。 各訓練により児童生徒が実際の発災を考えて動くことができた。 訓練の事前事後学習で児童生徒が自身で考えるよう指導した。今後は安全に関する情報を積極的に発信する。 教員間で情報を共有し、リスク想定、危機管理の意識をもって未然防止に努めた。今後は、グラウンドに土を補充するなどケガの防止に努めたい。 P T A環境整備活動の回数を精選、花ボランティアの実施方法を変更した。
イ②	<p>誰もが安心して生活できる学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒にとってわかりやすく居心地の良い環境づくり 発達支持的生徒指導の充実 「働きがい」と「働きやすさ」を両立した職場環境づくり 	<p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> A:62% B:36% <p>・ A:77%</p> <p>B:22%</p> <p>・ A:63%</p> <p>B:34%</p> <p>【保護者】</p> <p>A:81%</p> <p>B:15%</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室の整理整頓や支援により、問題行動や他害が減少した。今後は、すべての生徒への支援を実践、支援の精選を行う。 刺激になる物をまめに片づけることにより児童生徒が落ち着いて過ごせた。今後は障害特性に関する学習会、支援に必要な物品等を教員に紹介する。 教員の集団の一員であるという意識がチーム作りにつながった。 教員が児童生徒への「励まし」「称赞」「対話」の大切さを理解し実践できた。 教員が発達支持的生徒指導について話し合う機会を2回設け、児童生徒への温かい接し方、働きかけを共有した。今後は児童生徒同士もお互いの良さを認め合う機会を増やしたい。 次年度は、新N E S端末による効率化を提案する。
ウ①	<p>共生社会の礎を築く「共生・共育」の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交流活動の充実 本校の教育活動の発信による理解啓発の促進 センター的機能の発揮 	<p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> A:55% B:38% <p>・ A:59%</p> <p>B:35%</p> <p>・ —</p> <p>【保護者】</p> <p>A:74%</p> <p>B:23%</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年が交流活動に取り組むことができた。 学校間交流では、本校の良さを伝えることができた。相手校との事前打ち合わせが充実した。 教職員間でサポーター活用が進み、生徒の交流の幅が広がっている。 ホームページは各学部で計画的に更新できた。 ホームページや作業製品販売、美術作品展示により生徒の良さを外部に発信できた。今後は作業製品の質を高めていく。
ウ②	<p>自立と社会参加に向けた地域社会との協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会による学校支援体制の充実 地域社会の人的・物的資源の活用 効果的な関係機関等との連携 	<p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> — <p>・ A:52%</p> <p>B:35%</p> <p>・ A:62%</p> <p>B:35%</p> <p>【保護者】</p> <p>A:67%</p> <p>B:29%</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員間で進路便りや学部会等で必要な情報を共有・周知した。今後は、紙面だけではなく口頭で伝える場も設けたい。 地域人材を活用した回数が大幅に増加した。今後もマッチングを促進する。 教員が支援会議等の参加マニュアルを理解し、支援会議の内容を校内で共有できた。今後は、よりシンプルでわかりやすいものを作成する。